

営農情報(令和8年5月)

作成・監修 勝浦町農業振興推進班

■かんきつ類

近年は、気象の影響と考えられる隔年結果が現れており、今年産においては、温州みかん、すだちは裏年、ゆずは表年が予想されます。温州みかんの隔年交互結実栽培は定着し、生産と品質の平準化は向上してきましたが、規格外の大玉果が多くなっているため、適正な着果管理に取り組みましょう。

◇樹体管理

- ・花器の充実、新梢の緑化促進のため、チッソ(尿素)を6月まで農薬散布時に混用する。
- ・果実体質の強化として、一次生理落果期からカルシウム剤(カルタス)の散布を開始する。(カルタスはハーベストオイルとの混用を避けること。)
- ・晩生温州の隔年交互結実栽培への移行は、摘果剤を活用する。
摘果剤:「ターム水溶剤」 500～1000倍
散布時期:一次生理落果期(満開後10～20日)に立木全面散布(暖い日を選ぶ)

■かき

◇摘蕾

開花15～5日前に、1結果枝上に1～2花残す。基部から2～3番花が大玉果が大玉果になる。結果母枝基部の弱い新梢の蕾は、すべて摘蕾して翌年の母枝として利用する。

■キウイフルーツ

◇摘蕾・受粉

正常な蕾を残し、同時に側花蕾も除去する。1㎡あたり30～40花蕾を目安に残す。中長果枝で3～4花蕾、短果枝で1～2花蕾とする。受精不良果は、小玉になるので適期に受粉する。

【5月の病害虫防除】

かんきつ類

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
開花期	訪花害虫	モスピラン(顆水)又は エクシレルSE	4000倍 5000倍	14日 前日	3回以内 〃
落弁期	灰色かび病 そうか病	フロンサイドSC又は ストロビー(ド)	2000倍 〃	30日 14日	1回 3回以内
5月下旬	カイガラムシ類幼虫	モベント(フ)又は アプロード(水)又は スタークル(顆水)	2000倍 1000倍 2000倍	7日 注1)14日 前日	3回以内 〃 〃
	黒点病 そうか病 (スダチ除く)	デラン(フ)又は ナティーボ(フ)	1000倍 1500倍	30日 前日	3回以内 〃
	注2)かいよう病	ICボルドー66D	50倍	—	—

- ・灰色かび病は、落弁期に降雨が多いと多発する恐れがあるので必ず防除する。
- ・カイガラムシは発生予察情報に基づき適期散布する。
- ・モベント(フ)は、ミカンサビダニ、アザミウマ類、アブラムシ類、ミカンハダニ(密度抑制)にも有効。
- ・サンホーゼカイガラムシ防除は6月初旬に散布する。
- ・黒点病薬剤には、アビオン-Eを加用する。

注1)すだちの場合、アプロード(水)の収穫前日数は45日

注2)すだち等のかいよう病防除時は、ICボルドーにスタークルを混用できる。

かき

開花期	灰色かび病、炭疽病	ベルコート(水)	1000倍	14日	3回以内
-----	-----------	----------	-------	-----	------

う め

5月上旬	黒星病、すす斑病	ファンタジスタ(顆)又はスコア(顆)	3000倍 〃	前日 〃	2回以内 3回 〃
5月下旬	ウメシロカイガラムシ幼虫	モスピラン(顆水)	2000倍	前日	3回以内

キウイフルーツ

5月下旬	クワシロカイガラムシ幼虫	モスピラン(顆水)	2000倍	7日	3回以内
	果実軟腐病	ロブラール(水)	1000倍	前日	4回 〃

■水 稲

◇田植え前後の管理

- ・病虫害防除(箱処理剤の施用)
田植7日前から当日までにビルダーリディア箱粒剤50g/箱 を施用する。
- ・除草剤の散布
水稻栽培暦に記載された除草剤を散布適期に散布する。除草剤は田面が露出して乾燥してしまうと効果を失うため、散布後50日程度は、田面が乾かないように水管理に注意する。
- ・ジャンボタニシの対策
ジャンボタニシは、田植え2～3週間後までの柔らかい葉が被害を受ける為、農薬による防除は、この時期にあわせて散布する。その後は葉が硬くなり、深刻な被害を受けることはない。

■ナ ス

◇定植後の管理

- ・定植後は、すぐに仮支柱をたてて固定する。
- ・定植までの育苗期後半にアブラムシ、アザミウマ、ハダニ類の防除のため、モベント(フ)500倍を1株あたり50mlかん注する。
- ・定植後のかん水を兼ねて液肥を500倍以上に薄めて施用すると活着がよい。
- ・活着後のかん水は、やや抑え気味に行うことで根張りを良くする。
- ・第1花はトマトーン50倍液で処理し、確実に着花させる。
- ・成りぐせがつくまでは、花にトマトーン処理を行う。(目安としては6月末ごろまで)

■オクラ

◇播種前後の管理

- ・播種の目安は、最低地温が15℃になった頃。(マルチ栽培では、4月15日以降)
- ・種皮が硬く、吸水に時間がかかるため、播種前日より水に浸しておくとうえが揃いやすい。
- ・株間は20cm程度とし、1穴に4～5粒 播種する。
- ・土が乾燥していると発芽不良をおこすので、播種後も十分なかん水を行う。
- ・播種後、パオパオ等の不織布をかけてやると、保温や保湿の効果があり、生育が促進される。

<お問い合わせ先>

勝浦町農業振興推進班

勝浦町農業振興課42-1505 JA農業振興戦略実践課088-538-7180 徳島農業支援センター088-626-8768